こころのひろばグループホーム
（別紙の2）

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホームの理念に沿ったケアをするように心掛けている。職場会議開始時全員で唱和している。 | 「安心でその人らしい生活が送れるようなケアを」という方針の下、6つの理念があり、月2回の職場会議開始時に全員で唱和している。ホーム理念は法人の運営理念と共に事務所内に掲示されている。理念にそぐわない言動が職員に見られた時には管理者が個別に面談するようにしている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 月に何度か交流センターにて地域の方々による催し物に参加して、話をされる。 | 当ホーム1階にある地域交流センターで月3回、地域の方々による催物があり楽しみにされている。昨年の御柱祭では地区の長持ちや木遣りを披露していただき交流ができたという。中学生や高校生の職場体験も受け入れており、地域との関わりが出来てきている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 人材育成の貢献として、実習生、中学生、障害者の職場体験の受け入れも行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会にて、地域の方々に活動報告をして率直な意見を頂き、業務に生かしている。 | 3ヶ月に1回、第3あるいは第4水曜日の午後6:30～7:30に、複合福祉施設全体として開催している。家族代表、区長、消防団長、民生委員、老人クラブ会長、広域連合・市職員等が参加し、利用状況や活動報告を行い意見などを交換している。「ヒヤリ・ハット」なども報告し、会議での検討事項は職場会議でも報告し、その内容について話し合いを持ちケアに反映している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 認定調査時のみ。 | 介護認定の更新の際、市担当者に利用者の様子を伝え連携を深めている。介護相談員は2ヶ月に1回来訪しており、利用者と話をしていただき事後の感想などを伺いケアに活かしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者の行動を制止することなく見守り、寄り添うケアに取り組んでいる。 | 建物の2階にホームがありエレベーターを利用するためテンキーで管理している。外出傾向のある方は一緒に1階まで行き散歩に出かけるなど、できるだけ自由な暮らしを支えるようにしている。センサーマットを使用する方がいるが家族の要望で転倒防止等、安全のために夜間のみ導入している。法人で年1回虐待を含めた拘束に関する研修会を行い、職員の共有認識と理解を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 施設内の研修に参加し、他の事業所の方々と意見の交換を行った。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度があることは理解しているが、現時点では活用できていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 時間をかけてゆっくり説明し、その都度不明なところがないか確認を取っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族には手紙や来訪時に様子などのお話しをし、意見を聞いている。また家族会時に懇談会を開いて意見を聞き業務に生かしている。 | ほとんどの利用者は自分の要望等を言葉で表出できる。表すことができない方は表情や態度で表現されるので判断と理解に努めている。家族は月1回の受診同行のための来訪時や年2回開催される家族会に参加した時に意見・要望を出されるので、それをケアに活かしている。毎月、担当者が手書きのお便りで一人ひとりの利用者の近況を家族に伝えているので、何でも言っていただける雰囲気作りができている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各フロア会議、ホーム会で光熱費などの節約について意見を出し、各職員が実行に移している。 | 月2回の職場会議、月1回のホーム全体会議を開催し自由に意見を出し合っている。本年度は年間目標は掲げていないが随時、管理者と職員で要望や改善点を出し合いケアに反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は細目に利用者に声を掛けたり、職員の業務は把握している。相談事などもしっかり聞いてくれる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内での研修が月１回あるので、勤務を調整しながら参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流の機会があまりなく、取り組みは出来ていない。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面接の際ご本人に生活歴や好きなことを話して頂き傾聴に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族のご苦労、ご本人の今までの様子をゆっくり聴き理解するようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 他のサービス利用も考えながらご家族に説明している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員が利用者から助けてもらったり励ましてもらえる関係作りが出来ている。お互いが和やかな生活を送れるような場面作り、声掛けをしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 1カ月の様子を手紙に書くことでご家族から「生活内容や様子が分かり嬉しい」という意見を頂く。来訪時にはご本人とご家族がゆっくり話ができるように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族、ご友人が来訪された時はゆっくり話ができるよう環境に配慮している。同級会への参加の支援を行っている。 | 数名の利用者には友人・知人が来訪され、居室でお茶を飲みながら交流を深めている。80代の女性の同級生が時々ホームに来られ一緒に同級会に参加し、楽しい時間を過ごすことができている。また、訪れる友人の中には大正琴の先生がおり、ホームに大正琴を寄付され教えていただくなど輪が広がっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個別に話を聴いたり皆さんと楽しく過ごせ、利用者同士の関係がうまくいくように職員が間に入り調整役になっている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後、病院へ様子を見に行きご家族からも様子を聞いたり相談に乗っている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で言葉や表情などをしっかり観察し、職場会でアセスメントを行い把握に努めている。 | ほとんどの方は思いを言葉で伝えられる。日々の支援の中では特に食事に関する要望が多く聞かれる。誕生日に「饅頭が食べたい」との希望を受け利用者と一緒に手作りをして食べたり、話の中から要望に応えて職員連携のもと朝食バイキングを実施するなど、利用者の思いや意向を受け入れ前向きに対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの生活歴を念頭に置きその方に合った対応をしたり趣味を生かせるよう支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の生活パターンを理解し行動などを把握し不安なく過ごせるように支援している。心身状態にも注意し体調の変化を見て、状態が良くない場合はバイタルチェック、SPO2の測定を細目に行い、職員同士申し送りをしっかりしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月２回の職場会議の時に各利用者の担当者から本人が日常で困っていること等を報告し職員全員で話し合い反映している。アセスメントを含め職場会で話し合いモニタリングを行っている。 | 職員1人で1～2名の利用者を担当しており、月2回の職場会議で利用者の困っていることについて報告をし合い、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。変化があった時にはその都度モニタリングに基づいた介護計画の見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録が手書きからIPad入力になりIPadに慣れていないのとIPadの記録が簡単な入力内容になっており、手書きの時より記録の内容が簡略されているが職員同士情報の共有はIPadにて出来ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族が定期受診に同行できなかったり急変時など受診の同行をしている。日用品の買い物も利用者と一緒に行ったり地域の行事も積極的に参加している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 交流センターにてボランティアによる催し物に参加している。地域の方々が長持ち・木やりなど披露。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者の体調がいつもと違う時などかかりつけ医院に連絡を取り、アドバイス・指示を頂いている。 | 入居前の主治医を継続されている方は数名で、多くの方は協力医(敷地内にあるクリニック)を主治医とし、どちらも月1回の定期受診には家族が同行している。体調の変化に応じて協力医の往診もある。訪問看護ステーションと24時間対応の契約をしており月2回看護師が来訪し健康チェックや相談に応じている。同じ敷地内に歯科クリニックもあるので必要時に受診することができる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月2回訪看の定期訪問時様子を伝えアドバイスを頂いている。急変時・相談など指示を頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には様子を見に行き、病院関係者の方に情報を頂いている。退院時は病院関係者と密接なカンファレンスを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取りについては研修を行っているが、全員が研修を受けていないので勉強の必要性がある。 | 重度化した場合の指針に基づいて利用契約時や状態に変化があった時に確認書をいただいているが、家族の意向で病院や他施設に移られることが多く看取りの経験はない。法人で看取りに関する研修会があり、また、職員は自発的に他所での研修も受け学んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員は全員緊急時のマニュアルを周知している。ADLの研修も順番で研修に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は年２回行っている。 | 年2回避難訓練を実施している。法人の危機管理委員会が中心となり、1回はホームで利用者と一緒の訓練をおんぶして行いその大変さを改めて実感し訓練の大切さもわかったという。もう1回は複合施設全体での訓練を実施している。防災マニュアルの見直しについても検討中で、県からの情報を基に充実させていく予定になっている。 | |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 尊重とプライバシーを大切にしている。コミュニケーションを取りながらその方に合った言葉がけや、対応をしている。 | ホームとしての基本理念の一つに「利用者様一人ひとりのプライドやプライバシーを守り個人を尊重します」と掲げ実践に努めている。呼び方は苗字に「さん」づけで、同姓の方は名前、夫婦の方も名前で敬意を込めお呼びしている。本年度、接遇研修はなかったが、常に意識付けをしていこうと前向きに取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者に合わせた声掛けを行い、やりたいことをやって頂く。迷っている時は選択肢を増やしてみる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 生活の中心は利用者であることは心掛けているが、なかなかできていない。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | お化粧をされる方には化粧品を手渡しし、順番に塗れるように支援をしている。洋服はスタッフと一緒に選んでいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 昼食、夕食は利用者が食材を切ったり、炒めたりして煮物などは一緒に味付けをしている。また、食事の準備や片付けも行っている。 | ほとんどの方が普通食を自力で召し上がり、きざみ・トロミの方が若干名いる。じぃじのいえユニットでは利用者が食事の準備から片付けまで全員でできることを手伝っている。また、ばぁばのいえユニットでは法人厨房から料理が届き利用者が盛り付けをし、食器洗いは利用者が手伝ってくれる。テレビを消し、静かな環境で食事を摂られている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 体重変化のある方にはご飯の量を調節している。主治医より、水分制限のある方は毎回水分量を計るよう指示を受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分でできる方は見守り、出来ない方にはスタッフが声掛けして磨き残し、義歯の洗浄を介助している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人排泄チェック表を用意し、尿意のない方には定時誘導している。ご自分でトイレに行ける方は自尊心に配慮しながら排泄の確認をさせて頂いている。 | ほぼ半数の方が自立している。夜間のみオムツの方が若干名おり、日中は布パンツで夜間だけリハビリパンツにしている利用者もいる。職員は一人ひとりの排泄パターンに合わせ声かけや定時誘導をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄パターンを記録し排便がない方には10時と15時のお茶の時間にお茶の寒天ゼリーにオリゴ糖をかけて食べてもらい様子を見ている。また、水分補給も細目に摂ってもらっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴時間は職員の都合で行っている。入浴中は1対1でゆっくり入ってもらい楽しく話をしながら入浴してもらうよう心掛けている。 | 勤務表の中で職員が多い午後の時間帯に入浴を予定し、週2回は入っている。見守りや一部介助を要する方がほとんどで、全介助の方は複合施設3階にある特養の機械浴を利用している。1階の交流センターにある温泉も時々利用し、数名で入浴できることから好評であるという。今のところ、入浴を拒まれる方はいない。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は一人一人の体調や表情、希望に考慮して休息が取れるように支援している。日中活動することで夜しっかり休めるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局からの処方箋を個人ファイルに挟み職員全員が観る事ができるようにしている。薬の変更があった時は、必ず申し送りノートに記入し全員で周知し症状の変化に注意している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事作り、洗濯干し・たたみ、冬には干し柿、野沢菜漬け等利用者にいろいろ教えてもらえる場面を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近所へ散歩に出掛けたり、お弁当を作って出掛けたり、美術館・御柱を観に行ったりと積極的に出ている。また、個別でも出掛けている。 | 季節ごとに外出行事を計画している。多くの利用者は自力歩行で、数名の方は車いす対応で外出している。近くには高島公園や歩行者専用の散歩道があり、随時、散歩が楽しめる。少人数で出かけたり、地域の方と言葉をかわしたりして気分転換をしている。利用者も冬期間はなかなか外出できないので春が待ち遠しく思われているという。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金の管理は職員が行っている。買い物の時は自分で支払いができるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を持っている方は自由に電話を掛けている。手紙のやり取りはしていないが、年賀状は書ける方には書いて頂き、書けない方は職員が代わりに書いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者と一緒に季節の飾りを作り、季節感を感じてもらっている。職員は利用者が不快にならないよう、音・温度等には十分注意している。 | 食堂兼リビングにはテーブルが3つ置かれ適度な空間を保ちながら2～4人ずつで食事ができるようになっている。フロア全体に過度な装飾はなく落ち着いた雰囲気である。各ユニット入り口には利用者の顔写真が貼られている。ベランダからは周囲の景色が眺められ、暖かな日差しも入り、明るい感じを受ける。空調による温度管理がされ快適に保たれている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファー、テーブルの配置に配慮し、仲の良い利用者同士くつろいでいる。ソファーで横になって過ごされる方もいる。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には馴染みの物、ご家族がプレゼントした物を置いている。グループホームで制作した塗り絵や折り紙などを置いてある。 | 備え付けの整理ダンスが2台あり、その上に誕生日のメッセージ色紙や写真が飾られている。他に馴染みの物や本を何冊も置いている方もいる。パイプハンガーラックを置き、服が一目でわかるように工夫をされている方もいる。それぞれ大きめのボードが居室内にあり思い思いのものが貼れるようになっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | フロア内では各々好きなように過ごされ、何がどこにあるかわかっている方もいる。分からない方の為にも物の配置や置き方に配慮している。 | | |